

歴史資料等の積極収集に関する検討会議議事概要

1 日 時 平成 30 年 7 月 13 日（金） 16 時 00 分～17 時 00 分

2 場 所 国立公文書館 4 階会議室

3 出席者

（構成員）

〈座長〉	黒沢 文貴	東京女子大学教授
	河野 通和	株式会社ほぼ日 取締役ほぼ日の学校長
	児玉 優子	学習院大学大学院非常勤講師
	下重 直樹	学習院大学准教授
	武田 知己	大東文化大学教授

〈アドバイザー〉 波多野 澄雄 アジア歴史資料センター長

（国立公文書館）	加藤 丈夫	館長
	福井 仁史	理事
	荒木 潤一郎	次長
	依田 健	統括公文書専門官
	小原 由美子	統括公文書専門官室首席公文書専門官
	寺澤 正直	統括公文書専門官室上席公文書専門官

4 概 要 ※五百旗頭委員・細谷委員は会議前にいただいた事前コメントを記載

議題 1 平成 29 年度積極収集にかかる取組みについて（報告）（資料 1・参考 1-1・1-2）

- ・ 望ましい形で進められている（下重委員）。
- ・ 外邦図が安定した環境で公開されるようになったことは素晴らしい（波多野アドバイザー）。
- ・ 本事業の目玉となる資料があつて、それを国立公文書館が受入れたということが広く知られることで、積極的な寄贈に向けた情報が入ってくる可能性がある（黒沢座長）。

議題 2 平成 30 年度積極収集にかかる取組みの方向性について（報告）（資料 2・参考 2-1・2-2）

異議なし。

議題 3 歴史資料等の積極収集事業実施方針の策定に向けて（資料 3）

座長から事務局に、本日の意見を踏まえ歴史資料等の積極収集事業実施方針の作成をするよう指示があつた。主な意見は下記のとおり。

< 1 総則 >

- ・ 収集範囲について、線引きがグレーなものもあり、はじめから決めるのは難しいと思われるので、都度委員に投げかけ、判断していくと良いだろう（黒沢座長、細谷委員）。

- ・ 収集範囲を記載する際に、ネガティブリストは収集の弾力性を損なうおそれがあるため可能な限り避けたほうがよい（下重委員）。
- ・ 限られた予算のなかで動くため、今後様々な候補が挙げたときに緊急性や重要性から優先順位を考える必要があるだろう（細谷委員）。
- ・ 収集対象の検討にあたり、他機関とバッティングするより他機関の手が届いてない部分を狙いとして取り組む方向性がよい（五百旗頭委員）。
- ・ 記念館など、比較的小規模機関や運営が厳しい機関を優先的に検討するとよい（五百旗頭委員）。
- ・ 今後事業を進める姿勢として、コンサルティングとしての事前段階の動きが重要である（五百旗頭委員、武田委員）。
- ・ 研究プロジェクトから事業へと移行する段階では収集した資料の法的位置づけを明確にしておく必要がある（下重委員）。

< 2 所在情報の把握 >

- ・ 収集対象となる個人の遺族やその関係者に一度接触しただけでは資料は出てこないの、粘り強く先方と接触し、対話を継続する必要がある（黒沢座長、武田委員）。
- ・ 個人が所蔵する資料については、所蔵の有無等の公表を望まない場合もあることから、当該個人への配慮が必要である（武田委員）。

< 3 歴史公文書等を補完・補強する資料の収集 >

- ・ 「対象範囲及びその除外」について、収集対象から除外するものを実施方針に記載するのは馴染まない。館の姿勢として、間口は広くポジティブな姿勢を伝えることが重要である（下重委員、河野委員）。

< 4 寄贈等による歴史資料等の積極的な収集 >

- ・ 委員や連携団体への情報提供の声がけを定期的にした方がよい。研究者は、資料を取り巻く様々な人の思いがあるので、情報提供できない場合が多く、機が熟したときに資料を一気に預ける流れになることがある（五百旗頭委員）。
- ・ オープンリールやカセットテープを再生できるという環境が整備されているとよいし、また、このような技術的な相談ができるようなコンサルの役割があるとよい（武田委員）。
- ・ NARA は多くの視聴覚メディアを所蔵している。閲覧室に機器が置かれていて、利用者は自分でコピーを作成して持ち帰ることができる。（児玉委員）。
- ・ 図書館での経験から、資料を受け入れる際には文書で受入条件を交わしておくのがよい（児玉委員）。

< 5 体制等 >

- 国立公文書館が積極収集の取組みを進めているということを認知してもらうために広報が重要である（黒沢座長、細谷委員）。
- 収集した資料を国の財産としてどのように活用しうるか、一般の方にもわかりやすく伝えられるパンフレット等の広報媒体はできるだけ早く作成した方がよい（河野委員、細谷委員）。
- 事業の窓口たる「ハブ」と委員や連携機関等とのつながりで広がる「ネットワーク」の考え方が大事である（細谷委員）。

以上